

人と人がかかわり

豊かな地域をつくり

未来に種を育てていくまち

提言

（人と人がかかわり人が育つ分野）



2008年9月

市民会議第2分科会

もくじ

1．人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種が育つまち

人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていく行政関係部局の一体的取り組みと市民との連携、市民の取り組みの構築が求められる

縦割りから横の連携を創造する。

2．子育て、学校教育の取り組みによる次の世代の育成

子育て（子ども部）

（家や学校だけではなく）地域にいるいろんな人が関わり見守られ、子どもと親が育つ！（まち）

（いろんな人が関わって子どもと親は育ち、安心して暮らすことができる！また子どももいろんな立場の人がいて、社会ができてるということを肌で感じとれるかもしれないね。）

子どもも親も夢を描いて自主的に活動できる街に！

（「自分から何かしたい！」という気持ち大切にされること、またその「気持ち」が生まれる街になるといいね。その気持ちがまた誰かを助けるかもしれない！）

学校（教育推進部）

・ 集団生活の基礎と学力をしっかり身につけ、子どもたちがそれぞれの個性を認め合う、地域の中の学校を目指す

・ 地域の拠点となる施設として、大規模災害への備えを

3．子ども達を育てる市民や地域コミュニティの取り組み

地域コミュニティ（地域振興部）

みんなでつくる地域社会 - 地域コミュニティの構築（再確立と創造） -

様々な人（年齢、世代、環境、国、性別など）が、地域コミュニティという場で協力しあうことで、新しい力や方法を生み出す

4．地域に貢献し期待される市民の育成

生涯学習（生涯学習部）

自己実現から社会貢献へ 市民が活動しみんなが期待されるまち

5．これらを支える豊かな文化や食教育の取り組み

食育（地域振興部、教育推進部）

命をつなぐために命をもらうことを知り生きる力を育むと共に *根源*となる農業を発展させる

地産地消・旬産旬食のすすめ、食を通していのちと環境のつながりを学び、食と農のまちづくりを推進する

文化政策（生涯学習部・人権文化部）

「文化・伝統・人の自然利用の智慧」を継承し発展させると共に、独創性のある新たな「文化・伝統・人の自然利用の智慧」の創造を促進させる。

1. 人を育つまち、箕面の将来像

人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていくまち。

2. 将来像を実現する取り組みの柱

子育て、学校教育の取り組みによる次の世代の育成

子育て（子ども部）

（家や学校だけではなく）地域にいるいろんな人が関わり見守られ、子どもと親が育つ！（まち）

（いろんな人が関わって子どもと親は育ち、安心して暮らすことができる！また子どももいろんな立場の人がいて、社会ができてるということを肌で感じとれるかもしれないね。）

子どもも親も夢を描いて自主的に活動できる街に！

（「自分から何かしたい！」という気持ち大切にされること、またその「気持ち」が生まれる街になるといいね。

その気持ちがまた誰かを助けるかもしれない！）

学校（教育推進部）

・集団生活の基礎と学力をしっかり身につけ、子どもたちがそれぞれの個性を認め合う、地域の中の学校を目指す

・地域の拠点となる施設として、大規模災害への備えを

子ども達を育てる市民や地域コミュニティの取り組み

地域コミュニティ（地域振興部）

みんなでつくる地域社会 - 地域コミュニティの構築（再確立と創造） -

様々な人（年齢、世代、環境、国、性別など）が、地域コミュニティという場で協力しあうことで、新しい力や方法を生み出す

地域に貢献し期待される市民の育成

生涯学習（生涯学習部）

自己実現から社会貢献へ 市民が活動しみんなが期待されるまち

これらを支える豊かな文化や食教育の取り組み

食育（地域振興部、教育推進部）

命をつなぐために命をもらうことを知り生きる力を育むと共に *根源*となる農業を発展させる

地産地消・旬産旬食のすすめ、食を通していのちと環境のつながりを学び、食と農のまちづくりを推進する

文化政策（生涯学習部・人権文化部）

「文化・伝統・人の自然利用の智慧」を継承し発展させると共に、独創性のある新たな「文化・伝統・人の自然利用の智慧」の創造を促進させる。

人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていく行政関係部局の一体的取り組みと市民との連携、市民の取り組みの構築が求められる

縦割りから横の連携を創造する。

2. 指標

【目標の達成状況を測るモノサシ】

他の異なった部署が連携して取り組めたか

市民と行政の連携で取り組めたか

参画市民が増えたか（団体数、ボランティア参加数）

参画市民の層が厚くなったか（年齢層、多様な職業、男女比）

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

【まちの現状とまちづくりの課題】

問題

- ・ 市民参画が少ない 市民参画で作ったものがよくないこともあるという意見を行政から聞くこともある
- ・ 参画市民が限定される
- ・ 異なる世代間での伝承がなかなか行われぬ、育成していくしくみがなく世代交代が行われぬ。
- ・ それぞれ市民の温度差によって、人づくりや活用のしくみが実質機能していない。
- ・ 若者や働き世代などの育っていくべき階層の人間は時間がなく、地域になかなか積極的に参加できない。
- ・ 参加の場が得られない
- ・ 合意形成のスキルがない
- ・ ファシリテーター、コーディネーターの不足
- ・ 次の世代を育てるとことを中心に関係部局の一体的取り組み、市民との連携、人材の育成の取り組みが充分でない

解決するための課題

- ・ 市民の意識を育てる
- ・ 地域の人々の才能を発掘する（活用する）
- ・ 第4次総計には「人づくり」という項目はなかったが、環境や市民活動、福祉、教育など個別のところでの必要性和養成が行われてきた。共通する課題を整理しどのような仕組みや手法が必要か共通点をまとめる必要がある。
- ・ 人づくりに関すること
 - 1. 人材像、2 育成法、3 活動の場、4 システム、5 コーディネート、6 市民と事業・計画をつなぐ役割、7 事業の中の人材育成
- ・ 行動する人を作ることに係る課題 方法論の確立 講師陣 プログラムの確立
- ・ 情報共有に関する課題
- ・ 人と資源・人と事業・計画をつなぐことの課題
- ・ 人と人をつなぐことの課題
- ・ 生涯にわたって行う計画にするための課題（人材育成に関して）



4. 必要な取組

【市民等が取り組むこと】

1. 市民・事業者の意見・提言参加
2. 市民・事業者の評価参加
3. 市民・事業者の調整参加（縦割りを横につなぐ）
4. 市民・事業者の育成参加（行動現場で育てる。オン・ザ・ジョブ・トレーニング）
5. 市民・事業者の啓発参加（啓発普及を行う）
6. リーダーの役割
7. コーディネーターの役割
8. ファシリテーターの役割
9. 市民団体・事業者としての参画

〔市民等・行政が協働で取り組むこと〕

1．活動の場の提供（登録制度・活動の場の紹介、求めるところへ広報し求める人と求められる人をつなぐ）
（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部、）

2．育成する人材像を実現するために市民を育てる内容（生涯学習部）

市民意識の向上 個人と地域集団が、地域に関連する問題を意識できる感受性を身に付ける。

市民の豊かな知識（生涯学習） 個人と地域集団が地域に関連する問題、およびその問題の中の市民がきわめて大きな責任ある存在と役割を持つことを基本的な知識として身に付ける。

市民の積極的態度 個人と地域集団が、地域の良さ、地域の問題に対する強い思い、および地域の良さや伝統・人々の繋がり、環境の改善に積極的に参加する意欲を身に付ける。

市民も技術を身に付けること 個人と地域集団が地域の問題の解決のために必要な技術を身に付けること。

市民が評価能力を持つ 個人と地域集団が、目指す地域の有り方についての取り組みを環境的、政治的、経済的、社会的、住民感覚的、教育的要因から評価する能力を身に付けること。

多くの市民が参加・行動する 個人と地域集団が、地域の問題を解決する適切な行動を保証し、地域の問題に関する責任感を深め自ら地域の諸活動に参加できる行動力を身に付けること。

〔行政が取り組むこと〕

1．政策立案から市民や団体が参画できるシステムを推進する（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部、）

2．市民活動を促進するために環境を整備する。場・人・資金・情報提供。（地域振興部）

3．箕面市の伝統文化や地域情報を収集し、保存し、継承する専門家を育成する。図書館・郷土資料館・市民団体など。（生涯学習部）

4．特に若年層が地域活動に参加できる事業を展開する（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部）

5．生涯教育に人材育成を取り入れプログラム・カリキュラムを検討し実施すること。（生涯学習部）

6．各分野との連携による人材育成を進める。（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部）

5．効果

人と人との関わりあい、未来につながる地域や人やその活動を育てていくことで、自発的に活動する市民が増え、安心して暮らすせ、永続的に持続可能な暮らしやすい街をつくることができる。

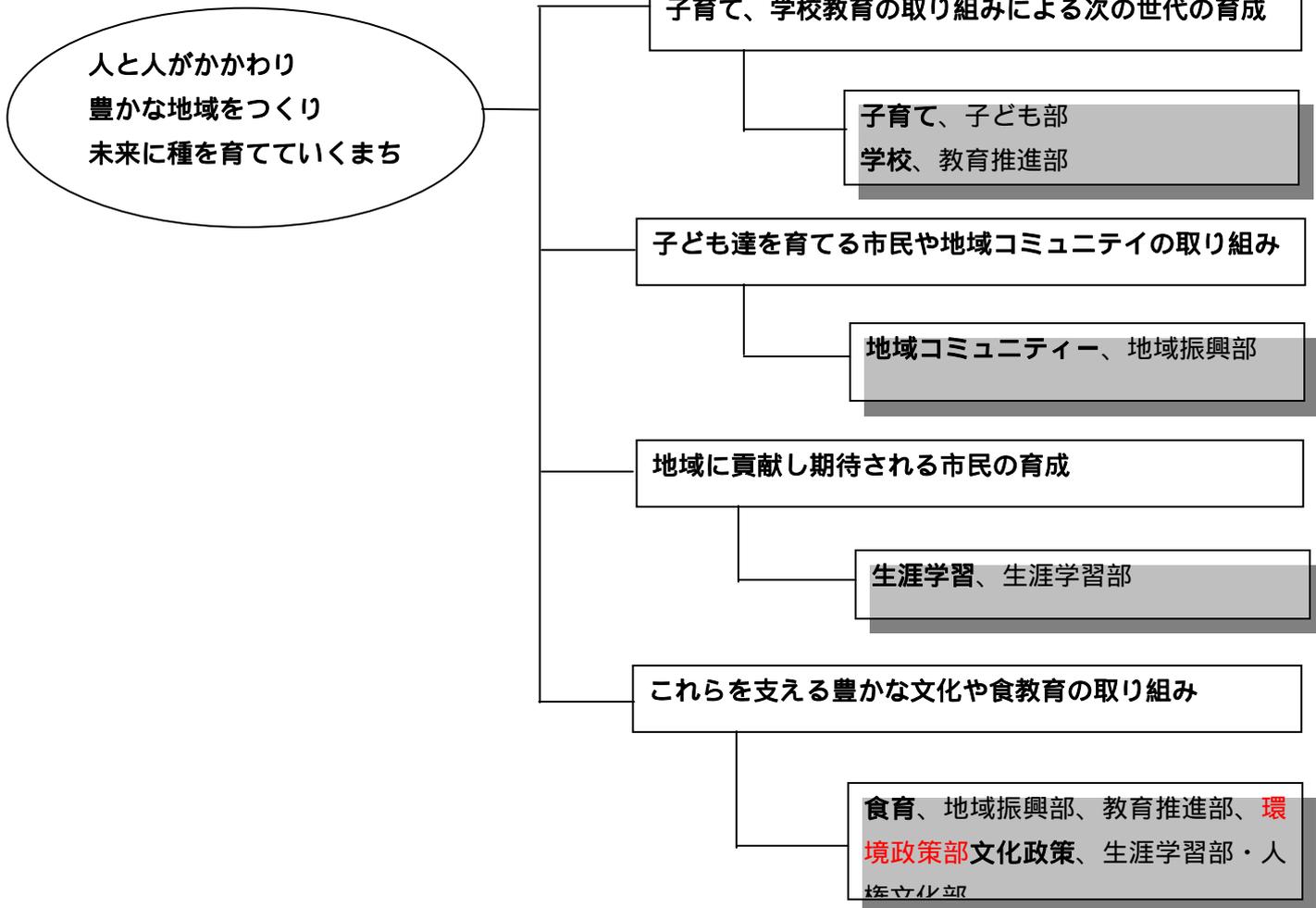


人と人がかかわり豊かな地域をつくり未来に種を育てていくまち

（人と人がかかわり人が育つ分野）

【将来都市像】

【施策の体系（柱立て）】



将来都市像（人と人がかかわり人が育つ分野）と柱立てに込めた思い

人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていく行政関係部局の一体的取り組みと市民との連携、市民の取り組みの構築が求められる

テーマを追求する取り組みを縦割りから横の連携へ創造する。

未来につながる種を育てていくとは、人と人とが関わりあい、未来につながる地域や人やその活動などを育てていくことである。

薫り高い豊かな文化に生まれ豊かな心で暮らせ、遺産が継承・保全され次の世代に伝えられる。

そのような人に関わる取り組みがされるまちのなあってほしい。

次期総合計画

人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていくまち

子育て
地域にいるいろんな人が関わり見守られ、子どもと親が育つ！
子どもも親も夢を描いて自主的に活動できる街に！

学校
集団生活と学力をしっかりと見につけ、
しっかり見につけ、
することができる学校

高校、大学 大学院
専門学校
(提言対象外)

出産・医療
提言対象外

目標
提言対象外
社会を担う
人材育成

子供

地域コミュニティ
みんなでつくる地域社会 - 地域コミュニティの構築（再確立と創造） -
既存の組織 ←→ NPO 等新しい組織

一般住民

生涯学習 自己実現から社会貢献へ。市民が活動しみんなが期待される町まち
(人づくり) 次期総合計画に参画できる一人一人の自覚した市民づくり (参画し協働できる市民)。そのことが市民の暮らしと市民社会を豊かにしてくれるようにする。

食育
命をつなぐために命をもらうことを知り学び生きる力を育む
文化政策
「文化・伝統・人の自然利用の智慧」を継承し発展させると共に、独創性のある新たな「文化・伝統・人の自然利用の智慧」の創造を促進させる。

社会貢献 共助
参画による協働

参画市民

行政

行政の役割
子育て、学校、地域コミュニティー、文化政策、食育、生涯学習（人づくり）

1. 子育ての目標

(家や学校だけではなく)地域にいるいろんな人が関わり見守られ、子どもと親が育つまち

(いろんな人が関わって子どもと親は育ち、安心して暮らすことができる!また子どももいろんな立場の人がいて、社会ができてるということを肌で感じとれるかもしれないね。)

子どもも親も夢を描いて自主的に活動できるまちに!

(「自分から何かしたい!」という気持ち大切にされること、またその「気持ち」が生まれる街になるといいね。その気持ちがまた誰かを助けるかもしれない!)

2. 指標

【目標の達成状況を測るモノサシ】

・子育て「ひろば」の数の推移

・子育て「ひろば」の利用者推移

- ・虐待件数の推移(虐待件数を計ることの難しさも一つの課題)
- ・市民活動などを行う、子育て世代の数の推移
- ・市民活動・社会貢献に携わる小中高生の数の推移
- ・公園の利用者数の推移
- ・夫の家事・育児参加状況
- ・男性の育児参加に関する啓発活動の推移
- ・男性の育児時間の推移
- ・働く女性の子育て負担感(働く男性の負担感も?)



3. まちの現状と課題(きょうの箕面)

- ・安心して遊べる場所・時間がない。最近ではこどもだけで遊びに行くことができない(社会的事件などの影響)、遊び方が限られている、体を動かすことが減ってくる
- ・子育てしている親が家で孤立する→悩みや問題が表に出てこない(虐待など、もっと小さい悩みも含めて)
- ・虐待、いじめ問題、親の苦悩などを吸い上げる場や相談場所がまだ少ない
- ・経済格差により負担のある家庭がふえている、経済的に厳しい子供への保障が足りていない(経済格差が教育格差をうんでいる)
- ・母子・父子家庭への支援の見直しが必要(保障・保育)
- ・家からすぐのところ集える場が少ない(子育てサロンは月に数回、サークル活動も時間が限られている。年齢によっては参加が難しい場合もある)最近、母体(民間、サークルの発展系、福祉会など)は様々だが「ひろば型」の子育て支援拠点が全国で増えてきている。箕面では少ない。
- ・センターは2箇所しかない(現在東部の設立が準備中であり、3箇所になる)ひろば型の子育て支援拠点が少ない
- ・子育ての場・集う場としての公園の機能が十分発揮されてない。(整備・管理)
- ・子育て支援センター「おひさまルーム」の認知度が低い→基本的に未就園児とその親が集える場所、箕面の保育士さんが常駐していて悩みなど相談もできる。知っていて行かない人もいるだろうがなんとなく知っているが詳しくは知らず利用しない人もいるのではないが。
- ・こどもが自発的になにかできる機会が少ない。
- ・中高生など反抗期を迎えた子どもをもつ親が相談できる場がない?
- ・中高生が集う場、安全に遊んだり、学べる場が少ない。

- ・出会い系サイトや有害なものが氾濫し、触れる機会が簡単になってきた。
- ・中高生になるとなかなか地域活動(社会貢献)に参加する機会がない(クラブや勉強やバイトなどで忙しい)、他の世代と関わりが少ない。
- ・また乳幼児・小学生など小さい子どもやその親と関わることで、いつか自分が親になった時に関わりが少しあることで大きく違ってくる。
- ・子育て支援(国・市の役割の見直し)の多様性。
- ・働きながら子育てができる環境が充分でない

4. 必要な取組

[市民等が取り組むこと]

- ・子どもや親が異世代交流できる場や機会をつくる
親が親としてのあり方を学んだり、地域に見守られながら子育てできるという安心感が得られる。子どもはいろんな遊び方を学んだり、いろんな人が関わって社会ができていることを学ぶことができる。
市民→様々な市民活動がその役割を担うことができる。
行政→支援や情報提供を
- ・地域全体で子どもを見守ることが大事。今の子育て世代の取り巻く環境を地域全体で考える。

[市民・行政が取り組むこと]

- ・広域なセンター型の子育て支援拠点(子育て支援センター)の充実や情報発信も必要。また一方で、小さい子どもがいてもいつでも歩いて通えるような、家の近くにひろば型の子育て拠点を。
→ひろば型の子育て支援拠点はサークルの延長であったり、市民活動が母体になっている場合も多い。
→市民活動に支援や情報提供を
- ・公園の機能を見直す! 異世代交流の場、子どもが体を動かして遊べる場所として有益な機能を持っている。
市民と市とが協力して公園を管理・整備していくことが必要になってくる。予算がないから修理や管理をおろそかにするのではなく、市民に様々な協力をしてもらうことも必要。どのような(年齢・時間帯・設備)使われ方をしている、何が必要で何が無駄なのかを検討するシステムが必要。
- ・「公園」の機能をもういちど考え直す。大人のペースではなく子どもの目線で街を考える。
- ・子育てサロンなど集える場所(何かしてもらえる場所)も必要な一方、保護者などが自発的に活動できる支援が必要
いろんな能力をもっている保護者がいる、きっかけさえあれば自らが動きまたその動きが違う子育て世代の助けにもなる。
- ・小学生の子どもたちに対して夢を与える教育や取り組み(将来への夢や希望があれば、頑張っただけで勉強したり、活動できるから) 現実の社会にこれから生きていくことをいろんな活動に触れながら知っていくことが大事
- ・小学生の子どもたちに対して地域活動への参加(社会に貢献することの大切さを地域活動を通して知る 体験する 自分に自信をもつ) 情報提供・市民活動の多様性
- ・小学生の子どもたちに対して、権利と義務を学ぼう(自分の権利が守られること、人の権利を侵害しないこと、果たすべき役割について学ぶ機会が必要 いじめ対策の一環)
- ・中高生の子どもたちに対して居場所づくりが必要(勉強や活動に忙しいけれど、自分の心がほっとするような居場所はあるのだろうか?) 市民活動などを通して、何かから解放される場所がいま必要なのかもしれない
- ・中高生の子どもたちに対して夢を支援する仕組みづくり(地域で子どもたちの夢に対して何かしらの支援を

行うことはできないか？)

- ・中高生の子どもたちに対して地域活動への参加を促進する(社会貢献)
大学にあるようなサークル活動(文化・学術)のようなものがあればおもしろい
- ・小中高のころから継続的に、環境問題や国際情勢を知ったり、福祉的な活動に触れることは大切
- ・子どもが自主的に、異年齢で遊べる場の創造(プレイパーク・子どもの居場所・総合型地域スポーツクラブなど)
- ・働くパパ・ママに対して支援を充実する。
保育の在り方を見直す、需要の多様性
- ・親のありかたについて学べる場をつくる。子育てについて相談できる場
しつけとは何か、虐待とは何かなど、人には聞けないけど知りたいと思うことが学べる
- ・子どもの育ちは、家庭や学校だけの問題ではなく地域や箕面市の問題としてとらえなければならない。子どもの権利条約や箕面子ども条例、エンゼルプラン、子ども読書推進計画など子どもの育ちに関わる様々な条例や方針・計画などの施策を、個々で進めるのではなく、地域住民も含めて連携し、協働して推進しなければならない
- ・子どもは多様な人との出会いを通して、社会を学び、他者を理解し、感性を育み、自ら考える人間に育っていく
- ・子どもと関わる大人(保護者・教員・職員・医療関係者・市民団体)が日常的に出会い、情報を共有し、研修し、協働できるような場の創造。
- ・急激な情報化社会に対応し、問題や課題を多様な立場の大人が共有し、研修し、協働で問題解決にあたることのできるシステムをつくる。
・母性保護・権利の普及啓発

【行政が取り組むこと】

特になし

- ・保育、子育て施設の充実
- ・働く女性の権利の普及啓発
- ・男性が育児休暇など育児の為に時間を取りやすくする・奨励する。(母親に対しては育児が当然と言う観念があり、どこの職場でも採用のときからそのつもりであるが、未だ職場での男性の育児時間については遠慮勝ちである)

4. 効果

- ・子どもがいろんな人に関わりながら育つことで、地域が活性化する要因となる。
また、こどもや親は安心して暮らすことができ、またそれ自体が地域を見守ることにもなる。
- ・子どもの様々な活動が継続的に行われる中で、子どもも社会を勉強することになり、またそれが社会貢献となって誰かの役に立ち社会に還元できることになる。
また、子育てをする親も自発的に活動したり、可能性を伸ばすことによって自分というものを大切にすることにつながる。そしてその活動が自然と子どもであったり他の親や社会のためになる。その循環が地域や人を育てることになる。
・働きながら子育てができる環境が整い少子化に歯止めがかかる

1. 学校の目標

・ 集団生活の**基礎**と学力をしっかりと身につけ、子どもたちがそれぞれの個性を認め合う、**地域の中の学校**を目指す

・ 地域の拠点となる施設として、大規模災害への備えを

2. 指標

[目標の達成状況を測るモノサシ]

- ・ 教員1人当たり児童・生徒数
- ・ 1学級当たり児童・生徒数
- ・ 就学前教育の在籍率
- ・ 高等教育への進学率



3. まちの現状と課題(きょうの箕面)

現状として

- ・ 虐待、いじめ問題、親の苦悩、不登校、先生や保護者の苦悩
- ・ 時勢として、教育における教師の負担が大きくなれば、教師はしんどくなっていきます 教育の質の低下を招く。

・ 校舎の耐震改修が進められています。

課題として

ハード整備 子育て環境の整備。

バリアフリー化(エレベーターはあと半分の学校に設置されていない)

施設の劣化を防ぐための継続補修の必要性を考え、計画性を持って修繕していく

ソフト 箕面の教育方針「ともに学び、ともに育つ」がこれからの時代どう進んでいくか。

- ・ スポーツ 人間性、何をしたらいいか。地域の拠点としての学校 地域との交流、社会的な事件により学校が閉鎖されがちだが、安全に開かれた学校であることも重要である。安全に登下校でき、安心してすごせる学校という体制を整えなければならない。特別支援教育。特色ある学校づくり。運動・文化のクラブ作り。
- ・ 不登校、いじめなどに関わる問題 予防的なこと、いじめられる側のケアはもちろん、いじめる側の子どももなにかしら心に傷がついている場合が多い。
- ・ 学校の教員に対する**教育 研修**はどんなものか

負担 経済的に厳しい子供への支援。教育の空洞化が**問題**となり、**受験のための学習は塾に大きく依存しているため**、経済格差が教育格差につながる**傾向がある**

心 学校、子ども達に社会貢献。地域で豊かに過ごす。

・ いざというときの地域みんなのための場所であることを、児童や生徒たちや、地域の人たちが知って大切にしてほしい。学校という場所が地域の支えとなることをわかって欲しい。

4. 必要な取組

[市民等が取り組むこと]

- ・ 登下校の見守り隊を全区域で実施
- ・ ゲストティチャーなどに登録し自分の持つ豊かな知識を学校に貢献する。

- ・学校は、「教育サービス提供機関ではない」を自覚する。保護者はサービスを受けるお客様ではない。学校は子供を育てる聖職の場であり、学校・保護者・地域が連携して子供を育てる場であることを自覚する。保護者自らも教育の一端を担っていることを自覚する。
- ・家庭の役割、地域の役割を理解する。
- ・子どもたちも市民であり、自分たちの使う学校、公園、まちをよりよくするための意見を出す。
- ・学校の独自性を出し、魅力ある学校づくりを行う

[市民等・行政が協働で取り組むこと]

- ・「ともに学び、ともに育つ」という理念を守りながら、安心して過ごせる学校。設備、サポートを長期的に考える。
- ・それぞれの子どものもったもの（特技や興味のあること）が認められて、一元的な競争ではなくみんながちがうことをそれぞれのこどもが認められる場
- ・それぞれの学校の特色がでる機会や場を作る。
- ・校内校協働要員の充実を行政と市民が協力して行い、人材の補強により、いじめ問題への対応、放課後学習、所得格差からくる学力格差対処を目指す

[行政が取り組むこと]

- ・学校でしっかり学べる教育システムを。
- ・社会的規範（自由と責任、権利と義務、罪と罰）を身につけるためのプログラムをつくる
- ・子どもや親が、安心して悩みや思いを伝えられる窓口を。
- ・スクールカウンセラーの充実（担任や教科担任では、手に負えないときに、教師を支援する、他の生徒を守るためのシステムが必要）
 - いじめ対策（いじめた子がスクールカウンセラー室へ行って、学ぶ）
 - 学習支援対策（学習の支援が必要な子がスクールカウンセラー室へ行って、学ぶ）
- ・医療的ケアが必要な子どもが通えるような学校づくりを目指す
- ・教育の問題や論点を市民・保護者に伝える市民普及員の育成と制度創設。
- ・地域拠点としての設備の充実と公知 設備を充実させるための費用
- ・校舎の大規模修繕計画案の策定と公知
- ・バリアフリー化の推進
- ・学校独自予算をもらう 支援の必要な生徒に、適切な支援を行うことができるような教育を行う
- ・ゲストティチャーとしての心得を持ってもらう。学校との連携がスムーズに行くようにする。ゲストティチャー講習の実施。
- ・特に必要とされる分野のゲストティチャーを養成する。
- ・現在のゲストティチャー登録制度を見直し学校とゲストティチャーを実質で直接つなぐシステムを作る。
- ・学校・保護者・地域の連携について常に保護者に啓発を行い「保護者はサービスを受けるお客様ではない」ことの自覚を常に啓発しモンスターペアレントの身勝手な解釈を排除する努力をすること。モンスターペアレントの基準を公開しておくようにする。

5. まちづくりの効果

地域の中での学校を目指し、地域の人たちの力を借りて、教師と共に、より充実した幅広く厚みのある教育を行うことにより、教育の空洞化を防ぎます える。

子どもたちの命を守るための強い校舎は、万一大規模な災害が起こったときには、避難所として多くの地域の住民たちの安全を守り、設備(体育館、太陽光発電、放送機器等)も含め、地域活動の拠点になります。
これにより、地域活動の連携は保たれ、復旧に向けての大きな力となります。

1. 地域コミュニティ目標

みんなでつくる地域社会 - 地域コミュニティの構築（再確立と創造） -
様々な立場の違う人（年齢、世代、環境、国、性別など）が、地域コミュニティという場で協力しあうことで、
新しい力や方法を生み出す

2. 指標

[目標の達成状況を測るモノサシ]



3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

問題

コミュニケーションの基本である挨拶がとれない。失われつつある。

地域のつながりの基本である向こう3軒両隣のお付き合いがなくなった。リつつある。

地域の人の顔が見えない。

異なる世代間などでの情報を伝えられる場やわかりあえる空気がない

情報源などが限られてくるので、孤立してしまう人は孤立するが生まれてしまう

個人情報（ぎすぎすしたものになってきた時代）を保護しようとする風潮があるため、必要な連絡が取りづらい
自分の事だけで精一杯？自分さえよけりゃ人のことなんていい？人と関わることは何かと煩わしい？

そんな風潮があるともいえる。でも自分だけでは生きていけない、きっかけがあれば変わることもある？

いざという時にいつでも協力できる地域組織が今作られていない（自治会組織率の低下、組織の数だけでなく
中身や質が重要な問題）

コミュニティとしての重要な場所「公園」が今その機能性を全然発揮していない 禁止条項（看板）だらけの
公園、修理がちゃんとされていない、事件など安全に関わる社会問題、市民と行政がともに公園を大事にして
いくという意識が必要

地域活動に携わる人も決まった人でそのつながりが限定されている、いろんな人を巻き込んで真のコミュニティ
が作られていくことがまだまだ難しい。

課題として

地域を育てるのは、地域の人であり、コミュニティにあることを自覚する。

地域教育組織の見直し。

市民と行政がともに公園を大事にしていくという意識が必要

子育てを地域ですること、子育て世代の負担を軽減し、世代を越えた助け合いの糸口を作る必要がある

地域にある人的資源の活用を、地域の人たちで考える 明るい、元気な町

4. 必要な取組

[市民等が取り組むこと]

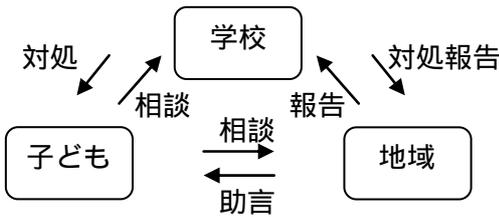
・みんなで助け合えば自分も助かるという社会を作る 既存の組織の再構築、新しい組織との連携、がっちり
した組織でなくてもやわらかくもつながりのある組織作りを（その場を創出）

・コミュニティ（自治会等）へ誘う（声かけを行う）ことで、コミュニティへの参加を促す。

・自治会に加入する。

地域で教育に対する支援を行う

寺子屋のような子どもたちの自主組織をつくる（子ども同士で勉強を教えたり、相談にのったりする場）
いじめに対して、地域で子どもを守る組織をつくる



[市民等・行政が協働で取り組むこと]

- ・ 地域自治組織の再構築（自治会加入の有無による差別化をはかる）
- ・ **行政が**自治会組織の目的と役割を再構築し、協働によるまちづくりをめざすにおいて、近隣の住民同士が理解し、共同体としての意識を高めることを推進する
地域の既存組織（守る会・福祉会・老人会・こども会など特定の使命を担う組織）と他の市民活動団体によるまちづくり
- ・暮らしに役立つ近隣情報の共有
- ・問題意識の共有
- ・事業の協働（企画から運営までのプロセスを重視した事業）
- ・地域コミュニティ施設（コミセン・公園など）の環境整備と活用
- ・誰もが日常的に出会える場づくり
- ・利用規制の緩和 - 責任をみんなで持ち合う地域 -
- ・公園の機能を最大限活かす管理、しくみを！
- ・市民が抱える問題の解決に必要な知識をもったコミュニティを紹介する。また、そのような窓口を作る。

[行政が取り組むこと]

地域と行政と関係機関による協働の促進

- ・ 地域のまちづくりを協働で推進する会の設置
（行政・警察・消防・小中学校・幼稚園・保育所・地域組織・住民などで構成）
- ・ 情報や問題意識の共有
- ・ 事業の協働（提案や企画から運営までのプロセスを重視した事業）

地域に独自予算をもらう

- ・ 行政から一定の地域予算をもらい、それぞれの地区で地域の独自性をみがき、魅力ある地域をめざす
（地域で何に使うかを考える）

住民が自由に参加できる場の設置とプログラムづくり

- ・ 興味や関心に応じて、余暇・レクリエーション・趣味など、誰もが個人でも参加できる場づくり

世代を超えて文化を継承する活動の創造と継続

- ・ 伝統文化の創造と継承 - 地域のまつりなど

子育て世代や子どもなど（異なる年代）との交流の場を増やす。

- ・ 異なる年齢、世代の交流する機会、場所を自発的に作られるしくみ、サポートを

《一例として》

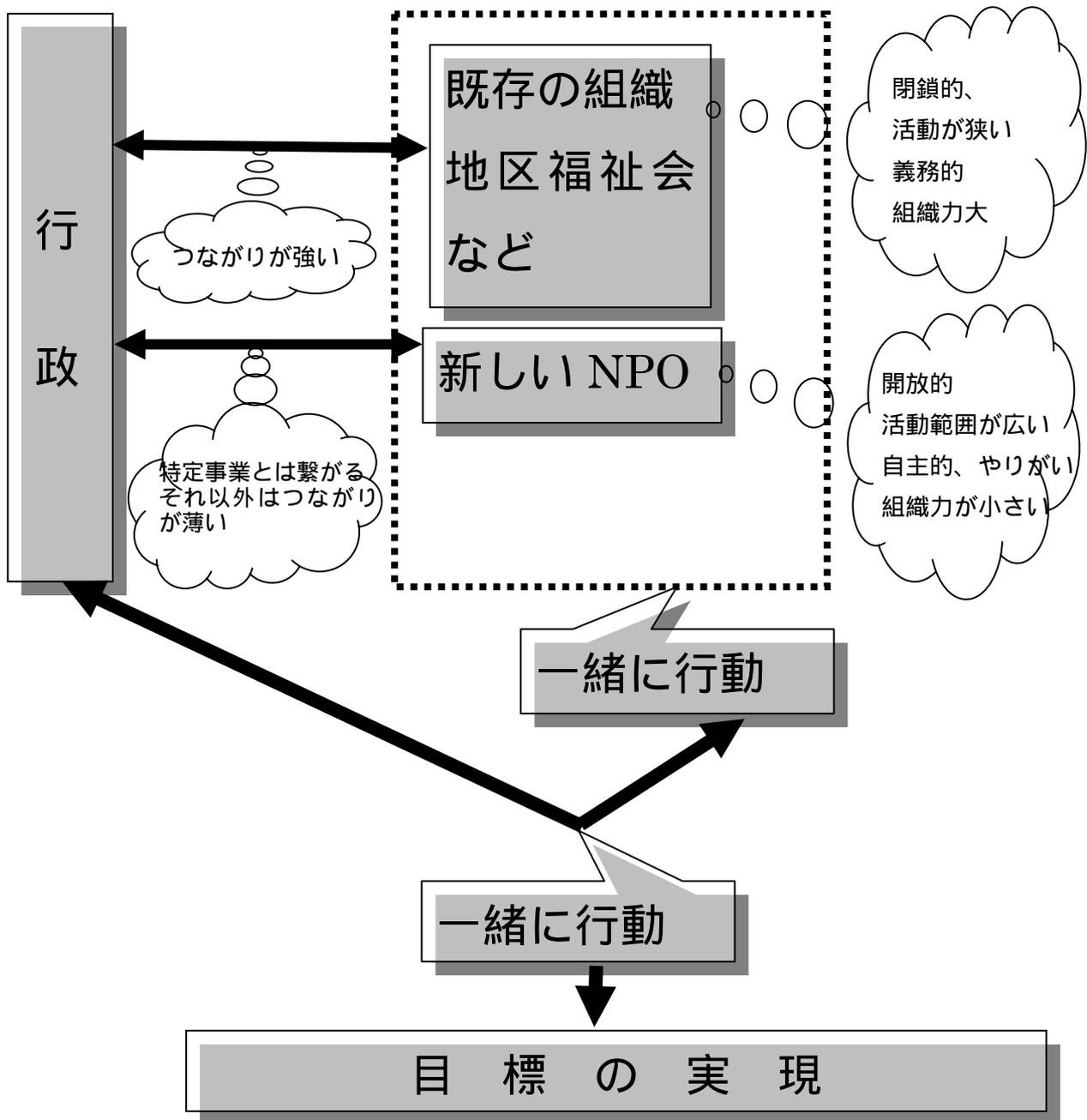
地域通貨制度における相互扶助システムを利用する（モデル：きたしば地域通貨制度）

<流れ>

- システムに登録する（登録料1,000円で100きたしば（100円と同価値）を10枚手に入れる）
- 登録会員は、自分で協力できること、やってほしいことに印をつける
- 自分で協力できることに依頼があれば、報酬（地域通貨）を得て、行う。
- 自分がしてほしいことに対して、申し出があれば、報酬（地域通貨）でやってもらう。
- 得た地域通貨は、協力店で買い物等ができる。

5. まちづくりの効果

地域の様々なコミュニティがお互いに協力することによって、社会の多様な変化に対応できるようになります。多くの人がコミュニティ活動に積極的に参加することで、地域一人ひとりの負担が減られ、よりコミュニティ活動が豊かになる。そんな好循環を生み出します。



1. 生涯学習の目標

グローバル（国際的）な見地（視点）から地域を学び、変化する社会情勢の中で他者とのコミュニケーションと学習により自分が自分であることを学ぶ（アイデンティティの確立）
地域の課題に取り組み、一人ひとりが地域で安心安全な暮らしづくりに参画、社会貢献することが喜びとなり変化する社会の中で、夢や自己実現に向かった質の高い箕面での暮らしを送る。



2. 指標

[目標の達成状況を測るモノサシ]

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

[まちの現状とまちづくりの課題]

いくつになっても学ぶこと知ることは大事という意識があまり高くない、
市民と行政の取り組みで生涯学習プログラムが他市よりも活発である。
学ぶことへの意欲・意識は高いが、自分の教養や趣味にとどまる事が多い。
生涯学習を企画する側の意識にも課題がある
学習やサークルは他市より多く存在するが連携した取り組みが少ない。（選択肢が多すぎて結局参加せずに終わることもある）
趣味に偏った場合は往々にして閉鎖的な面も見られる。
決まった人に限定される（リピーターのみで広がらない、いつも同じ顔ばかり）
モチベーションの差、体力の差、とりまく環境でも高齢者の活動の仕方がかわってくる。
まだまだ体力もあって活躍できる高齢者の方が活躍できる場が少ない
スポーツをしてこなかった人はなかなかきっかけがないとスポーツ施設を利用しない。
高齢者と子供の感じ方のギャップ。

解決するための課題

今後どうなるか、理解する

若者に多く住んでほしい

コミセンなど施設の設置目的が貫かれているか？

意識改革 プラスイメージが必要

人に必要とされているか？

活動の場の必要性

人と人のつながりがあるか？

4．必要な取組

【市民等が取り組むこと】

- 1．生涯学習の場の講師など、自分の技術や得意なことを貢献する。
- 2．孤独にならない（地域で訪問や声をかけあう）
- 3．市民企画、NPO 企画を提案する。
- 4．身近な人を誘う。
- 5．生涯学習で学んだことを友だちや身近な人の伝えることにより情報の共有ができる。（口コミの重要性もある。



【市民等・行政が協働で取り組むこと】

- 1．学んだことを地域で活かす活躍する場があるの創出。
- 2．特技・技能などを教え継承できる高齢者が力を発揮できる場をつくる地域人財バンクを創る
- 3．自分の技術や得意なことを登録して、地域貢献する仕組み。
- 4．安心して暮らすことができる。相談できる場がある（しゃべり場のように気軽に話をする場が地域にある）
- 5．地域コミュニティーセンターや学校などが交流の場として利用できるように（3世代の交流）
- 6．文化・スポーツ両面にわたり生涯学習の内容を考える。（簡単なスポーツなど）
- 7．まちづくりに繋がる生涯学習のプログラムについて研究する

【行政が取り組むこと】

- 1．様々なバリアフリー化（ソフト面もハード面も）で、誰もが学習しやすい機会を作る
- 2．高齢者の方が自発的に活動できる機会や場をつくる、もしくはそれを作ってもらう支援を。
- 3．市民の自主的な生涯学習を支援する
生涯学習のニーズを把握する
自主的な学習に対して支援を行う（グループ活動に対して、初期のみ補助を行うなど）
- 4．健康を維持するためのスポーツ・体操教室などが気軽に行える場を提供する
- 5．生涯学習で、様々な公共施設の目的を明確にし、目的達成のための利用を促進をする（コミセン・学セン・公民館・文化センター・体育館・市民活動センターなど）
- 6．健康の維持増進、地域コミュニティ創造のために、誰もが気軽に利用できる場の創造（総合型地域スポーツクラブ）
- 7．行政資料や地域資料を共有し有効利用できる環境整備（図書館など）
- 8．様々な分野の団体や行政が連携し、協力できるシステムをつくる
- 9．個々の趣味・興味・関心に合わせて、自由に自発的に参加できる場をつくる
- 10．不安や悩みを相談し共有できる仲間づくりと問題解決のための安定した公的機関やプログラム（人材養成も含めて）を構築する

5．効果

1. 食育の目標

命をつなぐために命をもらうことを学び知り生きる力を育みむと共に根源となる農業を発展させるとともに、栄養問題・家庭や地域のコミュニティ社会の問題に取り組むものである。“エコロジカル・アプローチ”
地産地消・旬産旬食のすすめ、食を通していのちと環境のつながりを学び、食と農のまちづくりを推進するし、
“食卓と環境とのつながりを考える食育”を目指す。

2. 指標

- ・農空間の環境としての保全が保たれ農地面積の推移
- ・農業従事者数の推移
- ・自給率の向上と農産物の生産量の推移
- ・市民農園等の参加者の推移（農業の課題の抜本的な解決とは関係はないが）
- ・子どもや親子を対象にした料理プログラムの講座回数の推移、また参加者の推移。
- ・農業体験等の回数の推移
- ・店頭に並ぶメイド・イン箕面の量の推移（既出の指標である、自給率アップと同じになるかもしれませんが）
- ・生ゴミ廃棄量減少の推移
- ・市民の健康の向上の推移
- ・個人から地域社会・学校での栄養教育プログラムの推移
- ・小中学生および成人の肥満度の推移

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

【まちの現状とまちづくりの課題】

問題

- ・食品偽装、産地偽装、BSE問題などによる、食生活への不安と安全への疑問の高まり。
- ・外国への依存も高く、自給率の低下と食糧危機への不安。
- ・食べ残しも多く、食品の廃棄など「もったいない」という意識の喪失や、子どもたちの食の乱れ（個食、ファーストフードなど）家族揃って食事をとる習慣の減少。
- ・農業離れ、後継者不足および農業の高齢化も深刻な問題となっている。

解決するための課題

- ・食ること、いただくことの意味、もったいないを知る。生産者を尊ぶ。
- ・食の安全、地産地消の推進。自給率アップ。
- ・現状では市民が作った剰余生産物が販売できない。（できるように工夫している自治体もある。）
- ・担い手・後継者の育成。
- ・農空間を知る（体験・観察）、農空間を守る、農業の遺産（技、智恵、伝統、文化）の継承を進める。
- ・市民参画（農空間の保全・活用を担う市民・与えられる市民から考え、行動する市民に）。
- ・ヘルスマイト（食生活改善推進のボランティア）など市民、行政への周知がない。
- ・一人ひとりが健康を維持する為の食生活を選択できる能力を養う。
- ・自分の身は自分で守れるように五感を育て自己責任を持てるようにする。
- ・子どもたちの調理能力の発達保証の場が必要。（小学校での途切れる隙間がある）
- ・妊娠中の栄養指導と調理実習、離乳食、幼児食の指導や就学前の親子料理教室など体験の重要性。
- ・生活習慣病の予防のため食生活を改善する。
- ・**食環境のあり方を考える、意識の啓発。**

4. 必要な取組

【市民・事業者の役割】

- 1．リーダーとして農空間のすばらしさを知らせる。体験、観察活動など。
- 2．スキルを持った市民リーダーとして農空間を守る。里山管理に参加する。植林の手入れ活動に参加する。
- 3．スキルを持った市民リーダーとして田植えや稲刈りなど援農活動を取り組む。
- 4．知識を持った市民として農業の遺産(技、智恵、伝統、文化)の継承を子ども達や市民に普及啓発する。
- 5．食べること、いただくことの意味、「もったいない」を子ども達や市民に普及啓発する。
- 6．生産者を尊ぶ心を子ども達や市民に普及啓発する。
- 7．知識を持った市民として農業の遺産の調査や継承方法を学識経験者、行政と協働して研究・実施する。
- 8．スキルと知識を持った市民リーダーの実地養成を行う。
- 9．住民・農業者・事業者が子供たちを対象とした、料理作りプログラムに参画と協力をする。
- 10．地域に地産地消・旬産旬食の応援団作り（コミュニティ形成にもつながる。身体も元気になれる）
- 11．市民にできる都市近郊型農地農業の支援を考える。
- 12．食生活習慣病予防の為、食生活改善プログラムの充実をはかり、市民・事業者が積極的に参加する。
- 13．スローライフ・スローフード（伝統的料理）など積極的に取り組み、自然が豊かな箕面での暮らしを充実させる。
- 14．市民・事業者など、地域や学校へのサポート、支援などを積極的に行う。

【市民・事業者・行政が協働で取り組む】

- 1．身近なところに箕面産の農産物を買える所をつくり、市民は積極的に購入する。
- 2．箕面産の農産物を販売できる個人商店や、スーパーなどを増やす（箕面産農産物取り扱い店という登録制度や取り扱いマーク）
- 3．食教育推進のため、市民組織の養成、支援、育成に努める。
- 4．市民リーダーの養成と活動支援の仕組みを創る（助成制度・情報提供・機材提供・活動の場づくり・コーディネート役割や資格など）
- 5．市民参加のステージ創り、農業体験のプログラムや内容の充実をはかる。
- 6．知識を持った市民として農業の遺産の調査や継承方法を学識経験者、行政と協働研究・実施する。
- 7．地域特産品の開発と拡大、箕面の特産品のPR（だれもがセールスマンであり、広告塔となりまた積極的な消費者となる）
- 8．鳥獣被害の防止、（真の動物愛護とは何か・自然環境の保全とは何かを考える）
- 9．学校ごとに特色のある食育事業を発展させる取り組みやしきみづくり（子どもたち・PTA・地域住民・市民リーダーなど）
- 10．**個人対象の栄養指導から脱却し、学校、地域社会全体で取り組む、栄養教育プログラムをつくる**

【行政の役割】

- 1．農空間の整備・保全（ため池、水路、田畑、山林）統一と連携の取れた政策を持つ
- 2．農林業の保全と拡大、市内需要促進をはかる。
- 3．農業後継者・担い手の育成・政策やしきみをつくる（国、大阪府・他府県・農協・事業者などの連携）
- 4．鳥獣被害の政策（他府県の事例なども学ぶ）
- 5．地域住民や市民応援団が学校や地域へのサポートがしやすいように窓口をつくる。
- 6．**“エコロジカル・アプローチ”をすすめるにあたり、行政内関係各所の繋がり連携を密にはかる。**

5. まちづくりの効果

市民一人ひとりの食育への感心が高まり、スローライフ・スローフードの取り組みや積極的な市民活動と社会参加により、市民一人ひとりが元気になる。まちが元気になり、健康なまちづくりにつながる。

箕面で農空間が守られ農業が発展していくことで、箕面の自然が守られ、持続的に地産地消が進み、健康な市民が増えていく。また、食の大切さを知ること学ぶ機会が増えることで、自らの体や自然を大切にする市民が増え、生ごみの減量や市民活動の活性化にもつながる。

“食卓と環境とのつながりを考える食育”から地球環境保全に寄与することができる。

個人対象とした栄養指導から脱却し、学校や地域など社会全体で取り組むことにより、栄養問題、家庭や、地域のコミュニティ社会の問題を総合的に捉え、地域コミュニティの再構築をすすめる。



1. 文化政策の目標

「文化・伝統・人の自然利用の智慧」を継承し発展させると共に、独創性のある新たな「文化・伝統・人の自然利用の智慧」の創造を促進させる。

2. 指標

【目標の達成状況を測るモノサシ】

文化との接触機会、

文化インフラストラクチャー（社会的生産基盤）の整備状況

指定文化財の件数

公立図書館貸出冊数（人口1人当たり）

文化施設数（人口千人当たり）

各種文化活動の行動者数、

文化活動への年間支出額

関連産業事業所数（書店、音楽関係、放送、映画館・・・）

生産額、

文化商品販売額

文化に従事する人の所得

文化に従事する人の身分（正規、非常勤・・・）

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

【まちの現状とまちづくりの課題】

問題

市民が気軽に文化に触れ合えているのか

一部の人のものになっていないか

何が遺産か行政、市民、事業者の合意ができているのか

環境の悪化と共にそれに起因する文化もなくなっているのではないか

解決するための課題

箕面から新しい文化を発信できているのか

文化芸術活動をしている人たちに活動の場が保障されているのか

箕面の自然、歴史、文化、伝統などの遺産を継承していけるのか、体制は整っているのか

遺産を継承して行く場(施設)はあるのか

遺産を見たり体験し学ぶ場があるのか

遺産のリストは、整理されているのか

行政の担当部局は充実しているのか

市民の声を反映する場や窓口は用意されているのか

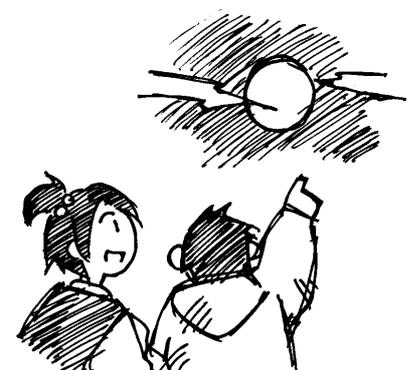
自主性の尊重はできているか

文化の親しみを通じて市民の身近なものにすること

文化を鑑賞、創造、参加できる環境整備

多様性の保護・発展

市民意見が反映しているか



文化の交流できているか

4．必要な取組

【市民等が取り組むこと】

- 1．文化遺産の保全・展示・解説活動への参加。市民学芸員活動。
- 2．文化遺産を解説しその意味を伝える「博物・文化インタープリター」としての活動により遺産を通じた学習を広げる。
- 3．文化遺産の継承に協力する。

【市民等・行政が協働で取り組むこと】

- 1．裾野の拡大を目指す。
- 2．文化遺産の保全と活用
- 3．文化交流の促進
- 4．遺産のリストを調査・整理する。
- 5．文化に親しみを通じて市民の身近なものにする広報・普及の施策を持つ
- 6．文化を鑑賞、創造、参加できる環境整備

【行政が取り組むこと】

- 1．箕面の文化、歴史、伝統行事、郷土（愛）などを伝える機会を充実する（郷土資料館や歴史的建造物などを活性化したり、活用することによって、訪問者も増える）
- 2．箕面を訪れる人に対して、また、箕面を訪れたいと思わせる何かをつくる。（箕面学・箕面検定など。特典付きにするとおもしろい）
- 3．芸術文化を創造し、発展させ、継承するための環境整備（図書館・郷土資料館・博物館・美術館など）。現存の施設や屋外にある遺産をそのまま保全、展示、活用、学習できるエコミュージアムの理念に基づいた、文科省登録博物館の開設。郷土資料館を核に博物館に昇格を検討する。（教育委員会所管の市立博物館）
- 4．基盤の整備
- 5．文化のレベルアップの支援
- 6．地域丸ごとの文化遺産を解説しその意味を伝える「博物・文化インタープリター」を養成し活用する。
- 7．学芸員資格者の職員採用を進める。保全、調査、研究、展示、学習の専門職員の確保。
- 8．箕面から新しい文化を発信する場の整備
- 9．文化芸術活動をしている人たちに活動の場が保障される会場使用免除制度を創設する。
- 10．箕面の自然、歴史、文化、伝統などの遺産を継承する体制の整備。部局の統合。（生涯学習部、人権文化部の文化に関わる部局を教育委員会側に統合する）
 - 11．市民の声を反映する場や窓口の設置
 - 12．文化・芸術基本条例の確立。自主性の尊重、不介入の原則の確立。多様性の保護・発展。市民意見の反映。文化の交流。

5．効果

薫り高い豊かな文化に育まれ豊かな心で暮らせる。
遺産が継承・保全される。次の世代に伝えられる。

